

地 域 再 生 計 画

1 地域再生計画の名称

豊前海地域の漁業活動を支えるみなとづくり計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

大分県

3 地域再生計画の区域

中津市及び豊後高田市の区域の一部（臼野港及び今津漁港）

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現況

臼野港及び今津漁港は、前面に豊前海を望み、背後には広大な平野が広がる大分県の北部に位置している。豊前海には大小8つの河川が流入しており、その河口域は遠浅の地形で潮の干満差が4mにも及ぶため、広大な干潟が発達し日本三大干潟のひとつにも数えられている。

こうした漁場関係から、干潟域では主にアサリを主対象とする採貝業やノリ養殖業が営まれ、沖合の浅海域では主にハモやエビ類、カレイ類を主対象とする刺網、小型底曳網、小型定置網等の沿岸漁船漁業が営まれている。また、豊前海の代表的な水産物であるガザミの全国有数の生産地になっている。

4-2 地域の課題

地形の特性により沿岸にある港や漁港では、航路や泊地は慢性的に埋塞し、また冬季風浪の影響もあることから、漁船等小型船舶の安全な航行、安定した漁業活動に支障が生じている状況にある。

本計画の対象とする臼野港と今津漁港においても、航路部の慢性的な埋塞による航路水深の不足が原因となり、出漁機会が制限されたり、漁船のスクルー損傷事故等が生じたりと漁業活動に支障をきたしている。

今津漁港においては、冬季には断続的に強い風浪の影響を受けて過酷な状況下で漁業活動を行っており、出漁準備と車両の通行の区分が不明確な範囲も残っている。

臼野港においては、漁船たまりと砂・砂利を扱う港湾施設が混在している。湾内に河川が流入し泊地の一部が埋塞していることから砂・砂利を運搬する船舶が泊地での旋回に多くの時間を要しており、その間漁船等の小型船舶は入出港を控えるなど漁業活動に支障をきたしている。

一方、対象地域における近年の漁獲量は横ばいしないし漸減する傾向にあり、さらに魚価の低迷により、魚家経営は極めてひっ迫している。このため、市場価値が高い魚介類の安定的な生産を得るために、資源量の増大を含めた早急な対応が望まれている。また、漁業関係者の高齢化などにより、水産業の衰退が危惧されているため、新たな雇用の場として安全で快適に水産業を営むことができる就労環境づくりも必要である。

4-3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、臼野港、今津漁港これら2港を総合的に整備することにより、安全で安定した漁業活動を行える環境を整備し出漁日数の増加を図る。あわせて、地域の特産であるアサリやハモなどの増養殖を支援する漁業振興策と連携することにより、漁獲量の維持さらには増加につながるものと考えており、水産業の振興や豊前海で獲れる新鮮な魚介類の安定供給を通じて地域振興の推進を図る。

(目標1) 出漁における潮待ち日数の削減

今津漁港：H27年度 30日 → H32年度 0日

(目標2) 砂・砂利運搬船が入港するための潮待ち日数の削減

臼野港：H27年度 40日 → H32年度 0日

(目標3) 一人あたりの年間漁獲量の向上

今津漁港：H27年度 3.1t/人 → H32年度 3.6t/人

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

各港の利用形態に合った施設の整備を行う。

臼野港は、防砂堤の整備を行い河川からの流入土砂を防ぎ、湾内の泊地を浚渫することにより、漁船の航行障害を軽減し、安全で快適な漁業活動の確保を図る。

今津漁港は、航路浚渫により出漁時の潮待ち日数を減少させ、かつ水深を確保することで漁船の損傷事故等を防ぎ、安全で快適な漁業活動を支援する。さらに防砂堤整備を行うことで航路の埋塞を防止し、安定した漁業活動の実現を図る。また、陸揚げ作業や漁具補修作業時には吹きさらしの中で作業を余儀なくされているため、外郭施設に防風柵を設置し、安全な準備・陸揚げ作業の実現を図るとともに、漁港内の道路整備を行うことで、出漁準備と車両通行の場を分離することにより、漁民の安全な就労環境を確保する。また、航路浚渫で発生する土砂を漁場造成に有効活用することでアサリ等が生息する干潟の保全・再生を図る。

加えて、幼稚魚の保護・育成の場となる増殖場や漁場の整備、ハモやアサリなどの漁獲量増大に資するソフト事業を連携させ水産業の振興を図る。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

(1) 地方創生港整備推進交付金【A3010】

【施設の種類と事業主体】

- ・ 港湾施設（臼野港） 大分県
- ・ 漁港施設（今津漁港：第一種漁港） 大分県

【事業期間】

- ・ 港湾施設 平成28年度～平成32年度
- ・ 漁港施設 平成28年度～平成32年度

【整備量】

- ・ 港湾施設 外郭施設、水域施設
- ・ 漁港施設 外郭施設、水域施設、輸送施設

【事業費】

- ・総事業費 924,000千円（うち交付金 424,000千円）
 - 港湾施設 324,000千円（うち交付金 124,000千円）
 - 漁港施設 600,000千円（うち交付金 300,000千円）

【事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法】

(平成/年度)	基準年	H28	H29	H30	H31	H32
指標1 漁獲量の向上 一人あたりの年間漁獲量	3.1t/人	3.2t/人	3.3t/人	3.4t/人	3.5t/人	3.6t/人

年度終了毎に大分県が必要な漁獲量の聞き取りを行い、速やかに状況を把握する。

【事業が先導的なものであると認められる理由】

港湾及び漁港が一体的に整備することにより、個別に整備するのに比べて、工事により発生する濁水が漁業に影響を与える期間を最小限にすることが可能となり、また、整備に必要な海上作業船を共有することができるため整備コストの削減が期待できるという点で、先導的な事業となっている。

5-3 その他の事業

地域再生法による特別の措置を活用するほか、「豊前海地域の漁業活動を支えるみなとづくり計画」を達成するため、以下の事業を総合的かつ一体的に行うものとする。

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

5-4-2 支援措置によらない独自の取組

(1) 水産環境整備事業 大分県北部地区

内 容 これまでも幼稚魚の保護・育成場造成を目的に増殖場を整備し、これらと連携させる形で大規模な人工魚礁場を整備してきたところであり、今後も計画的に増殖場及び漁場の整備を進める（水産庁支援事業）。

事業主体 大分県

実施期間 平成26年4月～平成30年3月

(2) 戦略魚種ハモ資源管理対策事業

内 容 ハモの資源増大を行うため、ハモ資源の分布、資源量、産卵時期等を調査し、地域に適合した科学的データに基づいた資源管理手法を検討するとともに、関係漁業者による資源管理計画策定の指導指針の作成を行う。

事業主体 大分県

実施期間 平成28年度～平成30年度

(3) アサリ増養殖推進事業

内 容 豊前海の貝類の減少に対処するため、冬期のアサリ減少対策や漁場のモニタリング、生息環境条件調査、天然種苗を用いた養殖技術の確立等を行い、豊前海における貝類の漁獲量増大を支援する。

事業主体 大分県
実施期間 平成24年度～平成29年度

6 計画期間

平成28年度～平成32年度

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度や計画年度終了後に大分県が必要な聞き取り調査等を行い、速やかに状況を把握する。

定量的な目標に関わる基礎データ及び事後評価に用いる実績データは、大分県漁協及び砂・砂利船取扱業者からの聞き取りデータを用いて目標の設定及び事後評価を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の手法

	平成27年 (基準年度)	平成30年 (中間年度)	平成32年 (最終目標)
目標1 今津漁港：出漁における潮待ち日数の削減	30日	20日	0日
目標2 臼野港：砂・砂利運搬船が入港するための潮待ち日数の削減	40日	30日	0日
目標3 今津漁港：一人あたりの年間漁獲量の向上	3.1t/人	3.4t/人	3.6t/人

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
出漁日数の増	大分県漁協からの聞き取りデータより
航行障害日数の減	砂・砂利船取扱業者からの聞き取りデータより
年間漁獲量の向上	大分県漁協からの聞き取りデータより

・目標の達成状況以外の評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

7-3 目標の達成状況に係る公表の手法

4に示す地域再生計画の目標については、事後評価の内容を速やかにインターネット(大分県のホームページ)に掲載することにより公表する。